

インフロニア B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2025

プロバスケットボール「Bリーグ」の18歳以下の選手が出場する大会「B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2025」が今秋、栃木県の日環アリーナ栃木で開催され、大阪エヴェッサに所属する樋原市の山本大扇選手(16)=清風高校=が躍動し、エヴェッサが史上初のベスト4に輝いた。チームは来年2月、東京都の国立代々木競技場で開催される「B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2026」の出場権を得て、ドイツやオーストラリアなどの強豪チームと激突する。

来年、国際大会で世界の強豪チームと激突



メント方式で開催。Bリーグの18歳以下の選手で国内最高峰の大会位置付けになる。ベスト4まで勝ち進めると、インターナショナルカップへの出場権を得る。

大会は、リーグ目標の「世界に通用する選手やチームの輩出」を目標に

中学生での最年少出場(当時14歳)を果たした。今大会では高校2年生ながらも、チームの中心選手の一人として出場。エヴァンスは初戦(2回戦)で長崎と対決し、山本選手は3Pショートを沈めて得点し、82-58で圧倒した。大阪はチームとして大会初の勝利になった。続く3回戦は、優勝候補の一つと目されたいた強豪の千葉と激突。山本選手はスタメンで出場し、献身的なディフェンスでチームに貢献。62-61で劇的勝利を收め、今大会で一番の劇的ゲームと評されるゲームを演出し、ベスト8を決めた。エヴァンスはその後、川崎戦でも79-75で勝ち上がり、チーム史上初のベスト4をつかんだ。

指揮したエヴァンスの鳥和成ヘッドコーチは「僕がチームを指導して4年目。その中の中心の山本選手は足を痛めている中、チームを鼓舞するプレーをしてくれた。1点差の千葉戦の劇的な勝利はディフェンスからつかんだもの。これが全てだと思っている。得点力がある選手だが、ディフェンスができるよう

ユートを中心
めきめきと頭角を現し、中
学3年だった2023年の同大
会には関西勢のチームでは初となる

山本選手が指導を受けて了清風中学校バスケットボール部の長谷川徹顧問は「中学時代と比べても確実に成長している。校内では今でもあいさつに立ち寄ってくれる。本人は将来プロの場で活躍し、清風中清風高出身であることを全国にアピールしたい」と言つてくれている。自分のことだけではなく、周囲のこととも考えることのできる、そんな意識の高さを持つ山本選手を今後も全力で応援していきたい」と話す。

ベスト4を決めたエヴァンセラは、来年2月に予定されているインターナショナルカップへ出場する。大会に向け山本選手は「チャンピオンシップのベスト4は『これまで鳥H Cのもとで皆で取り組んできたこと、やってきたことは正しい』という確信になった。今回の千葉戦のように僅差で明暗が分かれる。このことを胸に、一つひとつを丁寧に全力でプレーしたい」と話し、さらなる成長を誓う。

になり、将来必ずいい選手になると期待していると評した。

ベスト4までの 歩み

第1試合	2回戦		第2試合	3回戦		第3試合	準々決勝	
大阪 82	23 - 16 22 - 22 12 - 11 25 - 9	長崎 58	大阪 62	20 - 19 17 - 19 15 - 13 10 - 10	千葉J 61	大阪 79	6 - 29 26 - 16 20 - 18 27 - 12	川崎 75